

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流は理念にも掲げており、各ユニットに掲示し職員も常に意識、実践するよう心がけている。	人権の尊重や家庭的な雰囲気大切に考え、地域との交流を行うことなどを理念に掲げ、理念は名札と一緒に身につけており、常に職員がこの理念に沿ったケアができているか考えることができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の参加や、虫送り太鼓の立ち寄りも受け、老人ボランティアの定期的来訪など、地域との交流がある。(今年度は町内総会にも出席している。)	町会に加入しており、民生委員から町会行事等の情報ももらっている。近隣の特別養護老人ホームでの夏祭り、オレンジカフェ(認知症カフェ)には利用者4~5人で参加することもある。地域ボランティアの受け入れや子供会との交流、地域住民から野菜や季節の花をもらうこともあり、関係は良好である。	今後は、積極的に地域へ出、さらに交流を深められることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は町内会長、民生委員、地域代表者等の参加をいただき、活動や運営を報告、理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に推進会議を開いて話し合いの結果は文書で全職員に伝わっている。	運営推進会議は年に6回行い、家族、行政、民生委員などの町会メンバーが参加している。そこで話し合われたことから、避難時に使用する4人でかかえる担架の購入、入居者の身体状況の扉への表示、地域のお散歩マップの作成などに活かしている。また日ごろから面識のある薬剤師から認知症についての知識を学ぶ研修を行った。	会議の出席者をもう少し増やされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修に参加、情報を得たり発言したりしている。	市の研修会に積極的に参加し、得た知識を研修記録として回覧している。日頃より交流があり、困ったときはいつでも相談できる関係性は構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を行っている。離設行為がある場合、特に一人体制の場合のみ安全の為施錠している。	身体拘束をしないケアを実践しており、外部研修にも参加し、全職員への周知にも努めている。スピーチロックにも職員どうしお互い気をつけている。入居者が外出を希望するときは職員は付き添っているが、職員が少ないときのみ、短時間施錠することもあるが、運営推進会議等で必ず了解を得て行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し研修報告により全職員に周知し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	把握はしている。1Fには利用該当者がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得して頂くまで十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情担当者を配置し対応している。また運営推進会議での意見も反映、実践に努めている。	家族の面会時には必ず入居者の状況を伝え、各ユニットごとにホームたよりを年に3回発行し、入居者の様子がわかるよう写真やコメントを載せている。家族とのコミュニケーションはメールやラインを活用したり、直接電話することもあり、家族の状況に合わせている。運営推進会議に参加できない家族のために、会議ファイルを玄関わきに置き、いつでも見れるよう配慮されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も参加し職員親睦会を開催し、話し合う機会がある。	それぞれの階でユニット会議を月1回行い、入居者の様子やケアについて話し合っている。各ユニットから代表者が出席し週1回全体会議も行っており、他ユニットでの様子や施設全体の情報を共有している。また、代表者と職員のホットラインもあり、職員の意見が代表者や管理者に反映しやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の充実に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や、勉強会の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問などで、交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	待機中など、電話や訪問で相談に乗っている。職員は本人が落ち着け何でも話せる雰囲気作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からのお話しの中からも、要求をお聞きし安心に繋がるような対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネージャーとの連絡をとるなど、他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけコミュニケーションを持つよう努めている。また会話や共同作業の中からも学びを得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時は、家族とお話する機会をもち、理解を深め合えるよう努めている。イベント参加時や推進会議へのご家族の参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも馴染みの方が訪ねやすい環境作りや声掛けに努めている。	ほとんどの入居者は美容師の訪問によるカットしているが、これまで利用していた美容室でカットされる入居者もあり、家族や職員が連れて行っている。このように馴染みの人や場所との関係性が継続するよう個別の希望には職員体制を整え対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に対応したり、共同で活動する機会を設け、自然に支え合える雰囲気作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居をしても、継続的に関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の思いや希望を聞き、表情や態度からも思いを察するよう努めている。	日々の生活から思いや意向を把握するよう支援を行っており、直接聞くこともあるが表情や仕草から思いを察することもある。今年度は入居者との会話から神社や美術館に出かけた。外出を希望する人も希望しない人もおり、それぞれの思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人が発した言葉を大切に、ご家族からの情報も含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を元に、職員間で情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に一度行い、家族からの要望もお聞きし、職員間で話し合い計画作成に努めている。	入居者担当の職員が日ごろから希望や要望を聞き、家族からの意見も集約し、ユニット会議で職員全員の意見も反映し、計画作成者がプランを立てている。3か月ごとにモニタリングも行っており、その人ならではのプランになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から、ユニット会議で話し合い計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診、買い物、外出の支援など要望に応じた柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域住民との交流を図り互いに協力しながら支援し合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を選択でき、適切な医療の提供ができています。(緊急時は看護職員が付き添っている)	入居前からのかかりつけ医を受診している方は2～3名おり、家族が付き添う場合は日ごりの様子を伝え、家族が付き添えない時は職員が同行している。それ以外の入居者は施設の3人のホーム医にかかっており、病状に応じた主治医を選択している。また、皮膚科など専門医の往診なども受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、看護師と連携をとりながら常に健康状態を把握し適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院しても情報交換や相談をしている。病院開催の勉強会にも参加し関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全員が方針を共有しており、主治医との連携をとり、ホームでの最良の支援に取り組んでいる。(看取りの事例もある)	入居時に看取りを行うことも説明するが、重篤化や終末期に主治医と家族と職員で今後の方針を話し合う。昨年は3人の看取りを行った。入居者の様子はその都度家族に伝え、本人・家族の思いを大切にケアを心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修は順次参加、修得に努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応は、職員の目に付く所にマニュアル表を貼ってあり、救急搬送時には必要事項記載書類も準備できている。	緊急時に救急車が到着するまでの職員の対応について、職員同士で話し合い、研修にも参加している。また各フロアに緊急連絡網と緊急時の対応方法がすぐ見えるところに貼ってあり、マニュアルの見直し周知を行っている。	ホーム内での定期的な学習会や訓練を実施され、職員のスキルや知識を高められることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関は北陸病院、介護老人福祉施設は萬生苑があり確保されている。	協力医療機関や介護老人福祉施設とは日ごろから交流があり、3人の往診医とは24時間オンコールで対応できるよう体制を整えている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤帯は各ユニット一名の職員が配置されている。緊急時には近隣に看護師が在住しており、対応できる体制にある。	夜勤帯は各ユニット1名だが、3ユニットあるため協力できる体制は整っている。緊急時は看護師や主治医とはオンコールでつながっており、入居者の様子や職員の経験に合わせて体制を変更するなど、常に入居者の状況に合わせた対応を行う姿勢はみられる。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。消防署立ち合いの火災訓練も含め全員が緊急時に対応できるよう実施している。運営推進会議での訓練には地域の方にも参加してもらい意見や問題点の提示も受けており、改善に努めている。	年2回避難訓練を設けており、夜間や災害に合わせて想定を変えたり、実際に入居者も避難を体験している。5分以内に駆けつけることができる職員は4～5名おり、避難訓練時は地域住民も参加し意見をいただいている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	防災マニュアルの作成と安全確保の訓練なども実施している。	食材や衣類、医療品、生活用品等は常に確保してあるため、施設としては備蓄品を置かず、有事の際は同法人の他施設からの救援を受ける、グループ全体としての支援体制を整えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した接遇を心がけている。	一人一人の尊厳とプライバシーへの配慮を行うケアを実践している。呼び名は本人・家族から意向をお聞きし、親しみの中にも敬意を怠らないよう職員同士で常に話しあっている。プライバシーにも配慮し、他入居者の前ではさりげなく対応したり、個別には常に本人の意向を確認している。職員同士の申し送りも入居者が不快に感じないように行っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の思いを大切に、ゆったりした態度で対応する姿勢を心がけ、自己決定しやすいよう働きかけている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望の言いやすい環境作りをし、臨機応変に支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のヒゲ剃りや髪のカットは希望に応じている。洋服の選択は利用者と相談し決めている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や後片付け等、得意な作業を手伝ってもらっている。毎月の食事会(外食)は楽しみの一つになっている。	食材は業者に委託しているが、入居者の意向を聞きながら献立を変更したり、嗜好に合わせ個別に変更するなどの対応を行っている。入居者自ら下ごしらえや後片付けを手伝われたり、お酒を口にもすることも可能である。月に1回外食を企画し、希望者が参加し、楽しい時間を過ごしている。行事食の提供や誕生日には個別の希望に合わせた対応を行っている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量をチェックしている。変化があれば状態に合わせて、軟飯・きざみ・とろみ・ミキサー食等配慮している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛けし、汚染にならぬよう誘導している。	個別の排泄パターンを把握し、様子を見ながら声かけをしている。自分で行かれる方はさりげなく見守り、尿意等を感じない方には立ち上がったタイミングや職員や時間を変えての声かけをしている。オムツを使用している方にはトイレでの排泄を促し、オムツを外す支援を行っている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、水分補給を心がけている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は大体決めているが、希望に添うよう臨機応変に対応している。	週2回ほど入浴できるよう支援しているが、希望があれば毎日入浴することもでき、時間帯の希望や同姓介助を好まれる方にも配慮している。入浴を拒否される方には無理をせず、本人の気持ちに寄り添う支援ができるよう日ごろからケアについて話しあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や習慣に合わせ眠れる環境を整えるよう努めている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更がある場合は全員が把握できるよう、記録している。薬剤師と連携をとりながら支援に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗たく物たたみ、新聞やチラシでの作業を個々の力に合わせた支援で行っている。食事会や散歩などで気分転換を図っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく外出する機会をもつよう努力している。また家族の協力を得ながら外泊等の希望にそよう支援している。	コンビニや100円ショップでの買い物や、近隣のソバ屋やお好み焼き屋、すし屋、台湾料理店などへの外食など、本人の希望に合わせて職員と一緒に出かけている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は任せている。不安な方でも、安心の為手持ち金は持っておられる方もいる、また、いつでも使える預り金のある事で安心感を図っている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望のある方には、必ず対応している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の飾りつけをしたり、花を生けたり、家事の音やにおいでも、生活感や居心地のよさを感じてもらえる工夫をしている。	共有の居間にはソファやいすがありくつろげる空間になっている。季節が感じられるよう壁紙を工夫し、時には入居者と手作りすることもある。避難路の誘導版、スプリンクラー消火器も設置しており、適度な温度を設定し換気も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自室があり、互いに訪室したり、ホールには談話のできるソファを設置している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物は持ち込みをしていただき本人が居心地よく生活できるよう支援している。	入居時居室にはいす、衣装ケース2個、ベッドと布団があり、希望者にはテレビを貸し出すこともできる。自宅での生活が継続できるよう馴染みのものを持ってきてもらうよう声かけは行っている。持ち込みは基本自由だが大きなものや暖房器具に関しては相談してほしいと言われている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに応じた居心地よく、安全な環境整備に努めている。		